

秋の夜長に

副校長 山本 秀樹

先日は本校第1回目の音楽会にご参会いただき、ありがとうございました。保護者の皆様には、自分のお子様の様子を安心して見ていただくために、当初の予定とは異なる1学年ごとの公開としました。一生懸命演奏するお子様の様子はいかがだったでしょうか。また、音楽会開催にあたり、7月に発足した本校PTAの皆様へ受付や見回り等のお手伝いをいただくことで、滞りなく進行することができました。お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。

さて、記録的な暑さを記録した9月が終わり、いよいよ秋らしさが増してくる季節となりました。現在の10月は旧暦でいうと9月の長月(ながつき)にあたります。長月は「夜長月」から転じたともいわれており、実際に10月末になると日没時刻も4時台にまで早くなります。日に日に長くなってゆく秋の夜。昔の人はこの時期、どう過ごしていたのでしょうか。「春はあけぼの。」で有名な清少納言の「枕草子」には、秋についてこのように書かれています。

秋は夕暮れ。

夕日の差して山の端いと近うなりたるに、烏(からす)の寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。

まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。

日入りはてて、風の音、虫のねなど、はたいふべきにあらず。

秋は夕暮れがいい。

夕日が差して山の端の近いところに沈もうという頃、からすがねぐらへ帰ろうと三つ四つ、二つ三つなどと思いに急いで飛んでいるのもしみじみとしていい。まして、雁などが連なってとても小さく見えるのも大変良い。日が落ちてしまって、風の音、虫の声などが聞こえるのは言いようがないくらい素晴らしい。

日に日に早くなる夕暮れ時、空を見上げては季節の変化を感じ、日が入ると闇の中の音に耳を傾け、楽しみを見出す平安人の姿が思い浮かびます。平安時代は、夜になると植物からとった油で明かりをとっていましたが、それでも6時頃には床に就いていたそうですから、いかに夜が長かったかを察することができます。

現代では、この秋の夜長をどう過ごすか、子供たちにどう過ごさせるかが私たち大人の判断にゆだねられています。学校でも、10月からは子供たちの安全のため、4時30分には家に帰り着くように指導していきますので、家で過ごす時間は今までよりも長くなります。テレビやゲーム、携帯電話から目を離し、好きな本を読んだり、毎日の出来事について話をしたりと有意義に時間を使っていただけならと思います。時には夜風にあたりながら、公園で虫の声を耳を澄ませるのもいいかもしれません。

学校では、10月は6年生の体育大会、道徳授業地区公開講座、そして運動会の練習と教育活動が続いていきます。今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

【今月のあいさつ標語】

本校では今年度、子供たちが元気でさわやかな挨拶ができるよう全校で取り組んでいます。これから年度末にかけ、夏休みの選択課題として「あいさつ標語」に取り組んだ児童の作品の中から数点ずつ紹介していきます。第1回目となる今回は1年生です。1年生からは全部で12作品提出されました。

○ あいさつで きょうもいちにち はっぴーだ

○ あいさつを みんなのところに ひびかせる

○ あいさつは ともだちづくりの だいいっぱ

